



図書ボランティアのみなさん 1年間ありがとうございました！



2月27日（水）の業間に図書ボランティアのみなさんによる、今年度最後の読み聞かせが行われました。はじめは『ともだち ひきとりや』（内田麟太郎／作 降矢なな／絵（偕成社））、2冊目は『キラキラッとほしがかがやきました』（宮西達也／作・絵（ポプラ社））でした。どちらの本も「ともだち」とは何なのか、たくさんのことを考えさせられる内容でした。そこにお母さん方の役になりきった声、優しいナレーション、すばらしいBGMが重なり合って、とても素敵でした。子どもたちは終わった後教室で、「役になりきっていてすごかった」「ピアノの音楽がよかった」と瞳をキラキラさせながら話していました。（白山小HPより転載）

☆☆☆研究授業が行われました☆☆☆



2月25日（月）に、1年担任の茨山教諭が算数の「おおいほう すくないほう」の単元で授業を行いました。大小の2つの数量があり、小さい方の数量との差を知って大きい方の数量を求めていく問題です。絵図を用いて違いがどこにあるのかを考えていくのですが、子どもにとっては難しい単元の一つです。題意をとらえるために問題文を絵に表したものを3枚提示し、正しいものを選ばせることが場面の理解につながりました。また、絵図を使って違いを明らかにしたことが、たし算になるという理解に結びついていました。担任の適切な支援が子どもたちに安心感を与えている授業であり、今日の前向きな姿や聞く態度から1年生の子たちの成長を感じることができました。



2月28日（木）に、4年生担任の九谷教諭が算数の「直方体と立方体」の単元で授業を行いました。立方体の展開図には何通りもあることに気づき、それらの展開図の規則性を見つけるという授業です。4年生であっても展開図を頭の中で思い浮かべてかくことは難しいので、正方形の紙を6枚持ち、それで立方体を組み立てるといった活動から始まりました。正方形をどのように並べれば立方体ができるのか、子どもたちは無我夢中。その後、どのような展開図ができたのかを小グループになって話し合いを進めていくうちに、規則性があることを見つける子が出てきました。全体の話し合いではさらに、正方形の並び方で3パターンに分類することもできました。楽しく学習させたいという九谷教諭の教材の工夫が、4年生の子たちの意欲的な態度に結びついていた授業でした。